

▶ピオトープで幼虫の成育状況を確認する徳網さん



消えたホタルの光を取り戻して 区に明るい未来を

出石地域には、一度消えたホタルの光を取り戻そうと、養殖に取り組んでいる男性がいます。この取り組みを通じて、地域の活性化を図ろうとする、その取り組みを紹介します。

徳網 武男 さん(62歳)出石町奥山在住

消えたホタルの光

夏の夜、暗闇の中でほのかな光を放ちながら飛び交うホタル。その光景は見る者の心を和ませ、しばし幻想的な世界へと誘ってくれます。

しかし、近年、河川の汚濁や湿地の消失などの環境変化により、今では田舎でもこの美しい情景を目にすることが少なくなりつつあります。

このような状況の中、出石地域でホタルの養殖に取り組む徳網武男さんは「失われつつあるホタルが飛び交う情景を取り戻して、一人でも多くの人に楽しんでもらいたい」と意気込んでいます。

徳網さんがホタルの養殖を始めたきっかけは、平成16年の台風23号の被災で、恵まれ



▲消えたホタルの光を復活させようとホタルの養殖に取り組む徳網さん。仕事の傍ら、ホタルの生育管理に力を注いでいる。趣味は川釣りやレース鳩の育成

た豊かな自然が失われ、そこに生息するホタルが絶滅してしまっただけです。

奥山区では村おこしの一環として、「螢まつり」を毎年開催していましたが、被災後、ホタルはいなくなり、伝統の螢まつりは途絶えてしまいました。

養殖のできる環境づくり

そこで徳網さんは、西脇市でホタルの養殖を専門とする方から養殖のいろはを学び、平成17年に、同区で養殖を始めました。

まず最初に取りかかったのは、養殖をする場所と環境づくりです。同区内にある自身所有の田んぼに土を入れて集めた石や岩を組み合わせ、ピ

オトープを作り上げた後、近くを流れる川から水を入れ、ホタルの幼虫を放流しました。もともとゲンジボタルは清流でしか生息できないため、泥が溜まると適応できず生育が難しくなります。

徳網さんは貯水槽と生息槽を分離させ、貯水槽に泥溜まりを設け、生息槽にはろ過された水が流れ込むように工夫しています。

恵まれた環境にしか生息できないホタル

私たちが普段目にするホタルは、ゲンジボタルです。

約50種も存在するホタルの中で、幼虫時期に水中で過ごすのはゲンジボタルを含めてわずか3種類。これらは、4月中旬になると幼虫が水中から陸に上がり、土中や草木の裏などで繭をつくらせて羽化をじつと待ちます。時期がくると、繭を破った成虫が土からはい出して宙を飛び交います。このように、変態を行いなから生活空間を変えていく昆虫は珍しく、生き延びるためにさまざまな環境に適応してきた結果だと考えられています。このため、水・陸・空のどれ1つの環境でも汚濁され

ると、ゲンジボタルは生息できないことから、ゲンジボタルは豊かな自然のシンボルともいえます。

養殖を通じて地域の活性化に

徳網さんが製作したピオトープには、ホタルの幼虫が約5,000匹も養殖されています。

養殖は、自然環境保護や地域活性化、さらには子どもたちに夢を与える活動ともいえます。

徳網さんは「再びこの区に幻想的なホタルの乱舞を復活させ、ホタルを見に訪れた人々に感動を与えたい」と無数に飛び交うホタルの光りに想いを寄せていました。



▲ゲンジボタルの幼虫。4月ごろになると陸に上がり、成虫へと変態する

保育園に広報マンがやってきた！ ②

こくふ保育園

(日高町野々庄)

園児 115人



楽しみにしていた催しが
いっぱい！

3月3日、

こくふ保育園
では、「おひな
さままつり」
とお誕生日
会」が行われ
ました。



まずは、3月生まれの園児
10人が名前や好きな食べ物な
ど自己紹介をし、全員からお
祝いの言葉をもらいました。

今日は楽しいおひなさま
まつり！

続いて、おひなさままつり



が行われ、先生が「桃の節句」
について園児たちに話しまし
た。「3色ひしもちの緑色は、
雪の下で伸びゆく
新芽を、白色は大
地を覆う溶けゆく
雪を、ピンクは雪
の上で芽吹く桃を
表しているんです
よ」と説明すると園児たちは
「へえー」と大きな声でうなづ
いていました。



そのあとは、
みんなで一緒
に「おひなさ
ま」の歌を元
気に歌いました。



お菓子ちょうだい！

歌の後は、一人ひとりにひ
なあられ」が配られました。
マヨネーズ・しょうゆ・砂糖
などに味付けされたあられを

聖恩くん(4歳)と怜也くん
(4歳)もおいしそうに食べて
いました。



演劇とおひ
なさま寿司
で大満足！



さあ、今度は、
先生たちの楽し
い演劇の始まり
「パンパンパン
のフライパン」
です。

森の中を舞台にネズミ・ウ
サギ・ネコ・クマが登場し、
コックさんが大きなフライパ
ンでハンバーグやホットケー
キなどを次々に焼き上げてい
ました。おいしそうに食べる
動物たちを、大貴くん(5歳)
も楽しそうに見入っていました。

最後に、お
内裏様とおひ
な様をかたど
ったおひなさ
ま寿司をみん
なで食べて、
楽しいひとと
きを過ごしました。

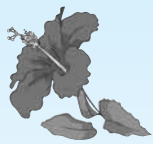


笑顔の輪

みんなで楽しく憩いのひととき
『城崎フラダンスサークル(城崎)』

毎月第1・3火曜日の午後
1時になると、城崎地区公民
館多目的ホールから南国を連
想させる音楽が聞こえてきま
す。

ここでフラダンスの練習を
しているのは「城崎フラダン
スサークル」の皆さん。ダン
スを通して心も体も元気に保
つと、平成19年4月に発足
し、現在、16人が活動してい
ます。代表を務める田中美智
代さん(城崎町湯島)は「フラ
ダンスは気分転
換にもってこい
の踊りです」と笑
顔いっぱい話
します。



フラダンスは、ハワイ州ア
メリカで発祥した踊りで、
50種類以上もステップがあり
左右の足へ体重を載せ替えな
がら、体全体を使って踊りま
す。もともとフラダンスは、
文字を持たなかったハワイの
人々が、神話や歴史を言葉と
踊りで伝えてきたものといわ
れています。踊り手は、波や
魚、風、木、大地に加え、人々



▲講師の指導を受けながら曲に合わせて踊るメンバー

が絶えないこと。練習前後の
空いた時間でもダンスや世間
話に花が咲き、笑みがあふれ
ています。練習日には、お気
に入りのレイといわれる花の
首飾りと独特の色使いで作ら
れたパウスカート(腰巻き)を身に付け、
南国の雰囲気を感じます。
メンバーは「ゆつたりとし
た動きの中でも適度に体を動
かすので、良い運動になりま
す。皆さんもぜひ参加くださ
い」と口をそろえていました。